

備陽史探訪

NO.20

発行
備陽史探訪の会

特集
新聞からの
歴史関係記事抜粋
その(一)

発行所
福山市西深津町
7-2-7
神谷和孝

萩への一泊旅行のお誘い

下見を終えて

神谷和孝

本会が、その実施に大きな力を注いでいる計画の中に一泊旅行があります。

出来るだけ会員の希望の多いところを心掛けて、一昨年は吉野に、昨年は山陰の尼子氏の居城、月山城、足立美術館、吉田のたたら等を巡り、非常に参加の皆様方には好評をいただきました。今年も評議会でも色々と検討した結果、山口、萩等をめぐってはどうかと言う事になり、五月に、立石氏、吉田氏(ともに評議員)と私と三人で候補地の山口、萩方面の下

見に行き、参りました。

例年通り実行委員長である立石氏の周到なる計画に基づいて、下見もスムーズに運びましたが、時間的にも、津和野、山口を旅程に入れ込むと、主目的の萩での見学時間が少なくなる。見残す場所も出てくる事になるので、萩の見学だけにしぼ、たまたまかと言う事に下見の三人の意見が一致し、評議会でも決定しました。この会報と共に皆様のお手許に、今回の旅行の要項が届けられると思っておりますので、旅程は、要項を参考にしたいだけだと思いますが、今回の旅行に参加していただければ、萩を徹底して知っていただけるものと確信しております。

萩は関ヶ原の合戦後の毛利氏の拠点として栄え、その居城の指月城跡をはじめ、その繁栄を物語る史跡が多くあります。また、明治維新を推新した柱小五郎、伊藤博文等々、その人達の精神的な支柱となつた吉田松陰等の旧宅や、その人達を偲ぶ遺跡が街中に存在しています。

萩には九月二十三日の昼には到着する予定ですが、昼からの、毛利氏の菩提寺の東光寺、松下村塾、城下町等の見学の案内を萩史料館長の三浦久氏にお願いしてあります。氏の長州弁の名調子、(余り名調子で通訳が要るかもわかりません。歌を歌って下さるかも)色々とお教えていただけますので、乞ふ御期待。宿も指月城の城壁と隣り合せて、絶好の場所にある国民宿舎城苑に決めました。

自由時間を二十四日の午前中にタツプリと取りましたので、朝食を早く済ませて、朝の萩の散策を十分に楽しんでいただけれると思います。またお土産には萩焼きをどうぞ。人数を三十名に限定しましたので、申し込みを早目にして下さい。

新聞記事ダイジェスト序言

吉田和隆

新聞は知識情報の簡便な獲得源である。歴史についての新説、新発見は日々興り、それ等により歴史像も次第に塗り変へられつつある。これ等の新聞の情報を確実にキャッチし、理解しておく事は、歴史に興味を持つ者にとり、甚だ有益と考へる。しかし日々の営みの中で、新聞を切り抜き、メモを取り、整理保存する事は仲々困難である。

ここに会報編集部は、会員諸氏の歴史認識の拡大に力を貸すべく、新聞の歴史記事の抜萃を企画した。抜萃の記事については更に詳しく調べたい人は、図書館に行けばよい。(福山市民図書館では、各紙を保存しています。コピーもしますのでおいで下さい。毎週月曜休館、十時〜六時。場所三吉町)。読んで楽しくなる会報を目指し編集部としては、今後も継続して載せて行く心算である。乞御期待。

一月

七日 石川県の真脇遺跡 五千年前の縄文前期
層から刃太に彫刻を施したトーテムポールのような彫刻柱がみつかつた。日本人の宗教心や信仰形態のルーツを暗示する最古、最大の遺物。(朝日)

八日・十三日 鉄剣に出雲の豪族名

松江・岡田山古墳 (朝日他各報)

十日・十三日 但馬下干支銘入り大刀 (朝日他)

八鹿町の箕谷(みいた)に群集墳

十日 県重要文化財に「寿福寺禅堂」(東城町) |

一室町時代の曹洞宗の禅寺 (1536) 建立

史跡に指定↓西城町八鳥(はとり)塚谷横穴群
と東城町「神代垣内落鉄穴跡(かじろがわちおちかんなあこ)」一六七七世紀初めの古墳時代後半期の墳墓群 県内で現在唯一の土の墓の
さらに、鉄穴一砂鉄をとる施設 (朝日)

十三日 杵久山に渡来人墳墓(奈良県橿原市)

朝鮮半島南部の古代の伽倻(かや)地域からのみ出土する騎馬人物型土器、子持ち高坏(たかぶち)土器や土板の鉄剣(てつけん)など多数出土 (朝日)

十四日 二千年前畿内でも製鉄

扇谷遺跡(京都府)から鉄滓 弥生前期の丹後九州と並ぶ技術 (読売)

十七日? 子日 銘文大刀は語る―出雲の古代ロマン (甲国)

十七日 前方後円墳は韓国ルーツ説を強調 (甲国) 韓国教援

十九日 「神社と祭り」三月末出版

上下町文化財保護委 三年かけまとめる (甲国)

十九日 備後国府跡解明に 府中で四ヶ所調査 (毎日)

十九日 松江の西川津遺跡 農耕具の工房跡か 弥生時代のくわの原木から 完成品まで五段階にわたる遺物がまぎらっている (朝日)

二十二日 奈良・吉備の関係を示す? 石板

奈良県桜井市の纏向(まきむき)遺跡で曲線を組み合わせた幾何学文様を石に刻んだ古墳時代前期の石製品の一部を発見。同じ文様は吉備地方に多くみられ、両地方のつながりが興味深い (朝日)

二十三日 新たに判明した二つの古代刀剣銘

部民制を示す最初の史料(岸俊男・京大) (毎日)

二十四日 平重盛の書状みつかると唐招提寺 (読売)

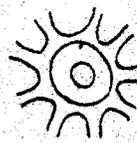
二十七日 陰陽道(おんみょうどう)秘伝など発見、京都元宮家跡 (毎日)

三十日 古代刀剣研究の今後、末永雅雄 (読売)

三十日 古代あぶり出す二刀の銘、20の?を考える (朝日)

2月26日

蓮華文様



香川県善通寺市の大墓
山古墳出土の鉄刀と出雲
市の上塩台築山古墳出土
の円頭太刀から同様の銀
象眼の文様がX線撮影に
より検出された。

(スポーツ紙をのぞく全きの新聞)

解説

今回のX線鑑定は今年一月岡田
山一号墳(松江市)出土の円頭太刀か
ら象眼銘文が発見されたことに端
を発している。築山古墳は明治二
十年に発掘され同題の太刀も鳥取
県立博物館に保管されていた訳だ
が、岡田山と同時期(六世紀後半)の
ものと考えられるためもしかした
らこっちにも何か出てくるかもし
れないと近代科学の再検証を受け
るべく奈良国立文化財研究所に依

頼されていたものである。

文様は同じ円の周囲にU字型の円
弧を連ねたもので、九州有明海沿岸
の装飾古墳等に見られる蓮華文の図
案化簡略化されたものと見られる。
この様な文様はこれまで奈良
県橿原市の新沢千塚古墳・熊本
の江田船山古墳出土の鉄剣で見つかっ
ているだけで今回も合わせて四例目
にすぎない。同研究所では大和朝廷の勢
力圏を示す貴重な史料とし、五丈新
岡もこの様な大和中心史観を無批判
に宣伝しているが、今まで見て来た
中に大和に向う示標などひとつもな
いのにとりしてそんなことか言える
のかと不思議な一日であった。

(2日の新聞をめくると大層から始
まって秦州ちゃん誘拐事件や自衛隊
員乱射事件等紙面をにぎわすことが
多く歴史関係はこの位でした)

3月のトビツク

中国最古の都「西亳」発見 5百朝

大阪市加美遺跡で最古の玉杖出土 100朝

民俗学に没頭50年、語り伝ふるオウラサマ 100朝

下張りに残る江戸期の生活史料数々点 130朝

肥沢城跡で孝経の最古の字本が出土 180朝

岡山市加茂日遺跡からト骨三片を出土 180朝

中国で前漢時代の少女ミイラが出土 230朝

京大構内に縄文晩期の人の足跡、薬師等発見 250朝

三角縁神獸鏡で日中討論 280朝

飛鳥の水時計遺構で二重の列石 300朝

日本製鉄史論集発行和銅開珮前の国産貨幣 400朝

オウラサマ東北地方に顕著に見られる屋敷神で、オクナイサマ、ガツキワラシと合せて、屋敷神とされた。此、屋敷神が家に入れば家が栄え、家から出れば家が衰える。と云う信仰形体を持っている。詳しくは、民俗関係の本を読んで下さい。肥沢城若手県水沢市に所在する

平安時代(802)の東北の柵と呼ばれた物で都城制と云う形体を示している。

孝経儒教の基本的な論理の孝について説いてある。お文孝経と述文孝経の二伝本がある。

三角縁神獸鏡魏の鏡とされていた此鏡は、AD324前年に華北から日本に少量に輸入されたとされる。神獸鏡は羊肉刻の神像と獸形を配して、主文を構成する神像と獸形の単位文とその配置によって、①三像対置式、②騎馬神環繞式、③多神同向式、④列仙重列式、⑤独立像求心式にわけることができる。⑤はほとんどない。

三角縁神獸鏡が此に属する。小突起によって等分された各区に、単像と復像の神像や獸形を求心的に配置したものの

復像の神像や獸形を求心的に配置したものの

復像の神像や獸形を求心的に配置したものの

復像の神像や獸形を求心的に配置したものの

復像の神像や獸形を求心的に配置したものの

復像の神像や獸形を求心的に配置したものの

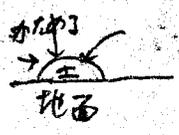


- 三日 三原の旧家より古書大量に発見。(談売)
- 石川島の寺より江戸時代の偽文書大量に発見。
- 五日 竹原の松阪邸(江戸時代の豪商)の保存修理工事完了。(朝日)
- 七日 最古の人類の化石、ケニアで発見。(朝日)
五万年年前の下あごの骨。
- 十二日 平城宮跡より、泉内親王(天智天皇皇女)の名を記した木簡を発掘。(談売)
- 十五日 備前秩最古の大がめ発見。岡山県北郡の民家で。(談売)
- 十八日 足利尊氏願文は本物! 偽物説が定説化していた
篠村八幡への願文を調査。(朝日)
- 二十日 豊臣時代の大坂城、三ノ丸石垣の一部発掘。(談売)
府中国府跡より、青磁碗他の破片発掘。(談売)
- 二十一日 日本最古の版築か。出雲大念寺古墳で確認。(朝日)
- 二十二日 最古級の能面発掘。奈良舞庄遺跡より。(朝日)
- 二十三日 はにわの踵部を復元。岡山県箭田大塚より発掘の破片より。(談売)

出雲大念寺古墳(四月寸評)

四月は二十一日の出雲大念寺古墳の発掘が朝日
日の一面を飾った。この発掘により、日本海側で
最大級の古墳である。出雲大念寺古墳が版築
工法で造られている事実を明かした。これは異なつた土を幾層も積み重ね、つき固める
工法で、強度、排水にすぐれた、高度の技術である。
これまでに六世紀末、奈良飛鳥寺創建の時中国
から伝えられ、使用されたのが我国版築工法の
最初とされてきた。それが六世紀半ばと推定さ
れた大念寺古墳の発掘により、定説はくつがえ
されたのである。
又古墳時代の日本海側地域と大陸との交流、
日本海側文化圏等、想像を刺激する記事であ
つた。
(鳥根県出雲市今市町)

版築工法の造り
(土星の場合)



地面に土を置き、それを固めて、その上は
の違う土を持つて来て、
又固める、それを繰り返して造る。



四日 福井で日本最古の星図を発見。

朝倉氏の寄贈した物か。(朝日、談表)

八日 香川南次(江戸中期の儒者)の写本、呉市内で

発見。(談表)

九日 息根で阿高式土器を発見。縄文中期の九州山

度の海上交通を裏付けか。(談表)

十日 明日香東明神古墳を発掘。草壁皇子の墓か。

右記事トついて他には次の如し。(朝日、談表)

14.23.26日(朝日)。12.13.17.24日(談表)

十二日 府中国府跡より円形硬の破片発掘。

高級役人使用のもの。(朝日)

十五日 正倉院御物は中国製。国産とされてきた

双六局食は、中国の腐製と判明。(談表)

二十三日 二次の三段田城跡を発掘。

室町時代三吉氏の出城か。(談表)

二十五日 平城宮跡より、役人の勤務評定を書いた木

簡を発掘。(朝日。同記事は26日談表にもあり)

二十九日 福山市駅家、石鎚権見遺跡より石の包丁を

発掘。(談表)

三十一日 愛知県勝川遺跡より、庚字二字をへう書きした

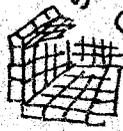
通輪を発見。(談表)

東明が古墳の発掘(五月寸評)

五月の最大の発見は、十二日の東明神古墳の発掘である。この古墳は、奈良県高市郡高取町佐田にあり、付近にはマルコ山、高松塚、亀虎等最近話題の古墳が多い。

奈良県立福原考古学研究所の同上邦彦第三研究室長により四月中旬より行なわれた発掘は、石室の特異さ乃び被葬者が草壁皇子と推定された事から世間の耳目を集めた。

石室は、横口式石槨と呼ばれる物で、日本ではこれまで発掘されてない。形態は同じ大きさ、形に整形した切石で床、側壁、天井を積み、天井は特に家形となる。韓国陵山里古墳群には、全く同じ石室を持つ古墳が一基あり、百濟の王室の墓とされている。この事から飛鳥資料館の猪熊兼勝学芸室長は、百濟滅亡後日本に落ちのいた王族の墓の可能性も示唆している。



副葬品は少なく、被葬者の骨片六、木棺の釘五十本と黒の漆膜片、円形棺飾り金具等である。骨片は被葬者は三十前後(但し性別不明)と見られ、万葉集等に因る位置と併せ、発掘した河上氏は草壁皇子の墓と推定している。

墓誌が見つからない為、断定はできなれものの、豪華な石室、漆塗りの木棺、棺台を持つ事(釘の数より推定)より天皇、皇族クラスの墓ではある。二百メートル離れた所に宮内庁により草壁皇子の墓とされ大宮殿がある。宮内庁は学者が何を発掘しようか墓は二二との態度を取り、虚実さを世に知らしめた。

他所者がたまげた福山の文化財

松並勇

ワシヤ、ヒロツマデ、ガンスケノ、福山人になるには、五十年かかるというから新米中の新米である。

吾が住む10ヶ所の所に横穴式古墳がある。割に小型のものだが、コレが古墳か？と気づき、タマゲた。古墳がお隣りさんであり、これが私を古いものあさりにも走らせた。

広島市では広島城、市内牛田の不動院と、教える程しかない。殆ど宮島に助けられている状態。それにも替え、福山市には、古墳、旧跡、名勝と、とても教えられない。特に広島市から東へ、北部へ、島嶼部へと、ずらりと拡がる。

福山市だけでも、国宝の数々、先づ全国的に有名な、活きている古墳とも云う中世の、草戸十軒町遺跡がある。発表の度にアツタマゲて、次へるの期待がふくらむ。

次は万葉にも残る、鞆の浦、之は大きい。一つの丘、一つの川、街角を曲ると、もう次の話題が待っている。小生も四回、実地説明を載いたが、まだ満足できない。もつともつとドリルした。先づタマゲたのは、此が幕府があったこと。始めウソと思つたが、本当である。

又、市内の古墳、古跡にしても教え切れない。日帰り程度の近郊コースなら、いくつでもセット出来る。

正に福山は古きものの宝庫である。なんととも福山の人には恵まれていて、福山の古い人におたずねしても、充分な

御返事がない。之は無関心なのだろうか。市民が知ってこそその存在ではなからうか。

かつて弓博の太陽の塔の製作者、岡本太郎氏が鞆の綱網、バラ祭りを知っているが、その他の豊富な歴史を聞いて驚いている。何故もつと宣伝しないの、大方うかたと語られたという。成程、バラ祭りは年と共に内容が充実して行き、その細微さを誇って居り、街がバラで埋まる日も、そう遠くないだろう。一方綱網は三百五十年の歴史と勇壮豪華な絵巻物としての賞格を示しつつも、余りにもあつけない。十分間程度のクライマックスが見せ場であり、綱もイケスの物等の悪評があり、やはり古物の良さの中に人工的な香いが入り過ると長続きしないのでは。

福山の二大見せ場は何れも五日間、一ヶ月間に集めて語り、あとは何も残り尻切れトンボである。一〇〇%、これらが達成しても一年の内にも占めない。

これだけ溢れる文化財、歴史の街を、一日一回の僅かな遊覧バス程度ではどうだろうか。もつと、もつと、地区的に、歴史と古墳等と云った、セットしたコースのものも宣伝したり観光福山も夢ではないだろう。

古いもの(人工的でないもの)は飽かれないという原則が生きている以上、道路、その並木、一昨年日向地方に旅したが、道の徹底した景観の木一草まで、どうぞ、いらっしやいの徹底した景観の意気込みが、むしろしと感ぜられた。之でこそ人が集まってくるのだと等と、つくづく思った。

福山の人自体が、まづこの宝庫を知り、他を愛

け入れようと、オープンな姿勢を取るなり、必ずや、年中そのにぎわいは続くだろう。

先づ第一は、懸案の県立歴史博物館を早期に実現して移付けし、前述のコース巡り等、岡山県総社市の様な姿が実現できる。

その点、備陽史探訪の会の存在は光っている。先づ一番に良い点は、民であり、官の香いがしないこと。つまり我々の考え方が実現できるというシステムになって身近に親しみがある。役員というより世話係の方々の弁當的参加で、企業、実地調査、反省など、次への飛躍が一ツ一ツ堅実に積み重ねられて行く熱い努力に、最大の替辞を惜しまない。今、狭く狭くとも、やがて深く、広い姿が実現する事を確信する。

さて、福山の字を解らぬ、他所者の放言をお許し、裁き、観光福山の発展を念じて、筆をおきます。

★Q&Aコーナー★

明治二年六月読す 借用証文に

落札一、銀壹貫伍分

天札一、金六兩参分と

記入あつたのを見て、天札とは、どう云う通貨なのか、又、何年頃まで通用して居たのでしようか、わかれはお教え下さい。

若記の趣な質問がありました、会員の方から解答を求めます。編集部へ解答を寄して下さい。

小坂山神社

塚本

福山藩主阿部正方公墓所
福山市本庄町福山女子短大前

阿部家十三代正方公は、最永元年八月二十一日江戸本郷丸山邸に生れる。老中筆頭であつた十一代伊勢守正弘公の甥に當る。十四歳にして家を継ぎ、福山十一万石の城主となる。慶応二年征長の役に石州口へ出陣、此時病を得て同年七月二十三日兵を収め帰城、此戦役の最中に藩運を堵して川口新漕に大新漕の築造を始め、同三年六月に汐留め成り三百二十町歩余の新田築造の大事業を完成、慶應振興に力を尽す。同三年十一月二十二日病死、年若千二十歳。同四年五月広島藩主浅野正桓公を墓子に迎える。明治三年十月十六日此地に改葬す。

なを、詳しくは本庄八幡神社下に四ツ堂有り、そのそばに十屯もあろうかと思われる巨石に詳しく刻んである。お祭りは十二月十七日で昔は、此日までに取込みを終らせようとかんばつたものだ。此日は昔、福山の金学校生徒がおまわりをし、何千何万の生徒が延々と長蛇の列を作り、がやがやとにぎやかだつた。境内ではお籠りというのが、僅さな、羽織袴に扇子で、アイタヤ、アイタヤ、ツビレ、デゴサムとか云つて子供心に覚えてゐる。二抱え、三抱えもある大木が茂り、昼でも暗き様だつたが、近年の松食虫の爲、昔の面影は全く無くなり、又、敗戦の爲今は誰一人お参りする人は無くなると、深閑として、時の移り変りはいかんともしがたく、アーメン。

私の好きな史跡の町

森 紀子

私は鞆の浦が好きで、よく衝動
的にバスに飛び乗りこの町を訪れ
ます。海と島と空との調和が微り
成す風光明媚な景色の中に一人身
を置くと、しばし浮世のしがらみ
から解放されます。対潮楼の座敷
から窓を頼縁に見立てて眺める仙
酔島や弁天島は確かに「日東第一形
勝」かも知れませぬ。それに医王寺
から眼下を見渡す景色はよりハ
ラマ的でこれも素敵です。
鞆の町は随所に歴史の重みを感じ
させ、てくれる場所があります。古
くはの口マンを掻き立てます。古くは
神功皇后が高鞆という武器を奉納
したという伝説、大宰府を往来し
た万葉人の哀歌、平家の女官達の
哀しい逸話、中世の足利氏にまつ

右

わる遺跡、どの時代を取っても、鞆
には、えも言われぬ魅力があると思
うのです。

私は史跡巡りをするよりも、内海
の景色を愛でながら歴史上の人物に
想いを馳せる方が、自分で作りに上
たいマジネーションも加わって、よ
りロマンを感じます。歴史を語る時
その時代を生きただ人間抜きには語
れませぬ。太古の昔から歴史の狭間
の中で、喜びや悲しみや怒りを抱
て真摯に生き、そして歴史の中に埋
没して逝った権力者や民衆の哀歎に
この上もなく、とおしさを感じます。
想像上の人物と私自身の生き方
を重ね合せて見ることは出来ませぬ
けれど、同じ人間として言ッようの
ない親愛の情を感じるのです。
円福寺の裏の石段に腰掛けて、ま
るで箱庭のようなのとかかな景色を眺
めてソると、昔、南北朝時代にこの

1984年7月7日

(11) 備陽史探訪

大可島で大合戦が繰り広げられ、一面血の海と可した面影はどこにも感じられずせん。あすかに南朝方の桑原一族の苔むした五輪塔に、よってのみ往時を偲ぶだけす。桑原伊賀守重信はもともと服部・椋山城主とした。後醍醐天皇の反幕運動(建武中興)に楠木正成と叫び、忘れて、備後一宮に拳兵した。桜山慈後に一早く忘じすした。最後はこの地で一族が切腹してしまふ。片隅に築られた五輪塔が哀れを誘います。

又、南北朝時代といえは足利直冬が敵対してソタ尊氏の命令によつて、逸着山城主の宮兼信や杉原利孝等と戦つて破れた。小島の森の合戦も、とりわけ尊氏と直冬が親子である事実の前に、戦国の世の習いとはソえ胸が痛みます。現在のこの地にある小島神社には、ふいふい

の神が祭つてあり、鞆鍛冶の発展に寄与してきました。が、これ又、この辺りに小島の森の面影はどこにも見当りません。

その地、鞆に縁がある足利氏といへば、十五代将軍義昭もその一人として、織田信長に京都を追われ、毛利輝元を頼つてこの地に幕府を作り、十年にしてその夢も潰えました。それと共に、その時代に係わつた安国寺忠瓊や山中鹿之助の教奇な運命に想いを馳せる時、勝者と敗者の変転に人の一生の無情を感じます。

乙女千ツクな感慨に、ソい年をして、我ながら苦笑を禁じ得ずせん。鞆の浦行きバスを見ると、又、そそろ足を向けたくなる私です。

左

1984年7月7日

(12) 備陽史探訪

津之郷町古墳巡り
七森義人
(親と子の古墳巡りの下見に参加して)

親と子の古墳巡りの感想を書くと、
たまには下見の感想をと思ひ、
四月のある晴れた日曜日、福山駅で田口さん、
会長、阿部さん、森さん、黒木さんと共に、電
車に乗り込み赤坂駅へ、そして、赤坂駅では赤い
シャツに赤い帽子の井川君が待っていた。
最初にはイコーカ山へ登り、山頂の神社に佇み、
危険はないか、どの様な質問があるか等の話を
て、スベリ岩へ向う。途中、道が悪い為、ロープ
が必用、古墳の内郭は暗く、光が必用、何人ぞら
いしか入れない等の話をす。此より尾根沿いに
山の北側へ行かないかと、井川君の反対を無視し
て進む。雑草を刈りながら山頂に着くと、巨石がご
ろごろしており、一人の男が喜んで石の上に登
た。他の人は病気が出たと云う顔をして、石の上
に上かつて休んだ。その一人の男は雑草の中をう
ろうろと石の周辺を歩いて、祭祀が、修験道が等
とわめていた。休憩を終えて下りの道を歩くと
かどいグツグツを履いても行くと、もうあきらめ
ようと後から声、それで決局断念して来た道を戻
る。下に降りてから旧山陽道を左の田畑を見な
がら歩き、内水越古墳へ向う。神社の下の空地よ
り尾根に取り付き、古墳へと歩く、井川君の案内
によって行く、一基、二基と見つかると、周辺の
雑草を取り、箱式石棺内の落葉を取り除くと終了
前よりまづつとわかりやすくなった。さて昼食

はと、記憶があやふやで古墳の前に昼食だったか
もしれません。下に降りて、神社で食べる事に決
定した。井川君がアルコールを持って来て、教人
が、飲んだ。(まさか未成年者は入っていないかたで
しょうね)隣の学校でトイレを借りて坂部古墳へ
と向う。佐藤さんと待々合の時間が過ぎ去って
いったので、井川君を先に行かせる。案内者がい
なくなつたので、道順が心もとなく、たぶんだ
いさうぶだるうと云う考えで進み、どうにか着
く。古墳の前の神社で一休みをして、猫がけ
づいくる。おうかうと逃げ、又近づき、逃げの
り返しをする。そして尾根に有る古墳を見に(猫
共に)行く。数個の古墳を見て降りてから、又、別
の尾根に登る。此で一人は猫とツツして、神社で待
つ、一人を除いた一行は別の尾根には古墳は見
からず別の道を通り本谷古墳へと向う。田んぼの
畔道を通り、本谷古墳へ着く。墳丘は無く、
石室が露出して、室内は広く、明るい。此よ
り津之郷小学校へ向う。丘の上に厚夫一人を見
けて、手を振って知らせた。津之郷小学校で遺物
の発見した池を見て、田辺寺の礎石を見てバス停
より帰福(井川君は余暇勉強よし)そして、最後に
全員の意見で、所要時間、服装、諸注意等を取り
決めて解散、一路我家へと、心良き睡眠と夢を

覆面ルボ氏の文体に追って見たが、やはり無
理の感が強く残った。

1984年 7月 7日

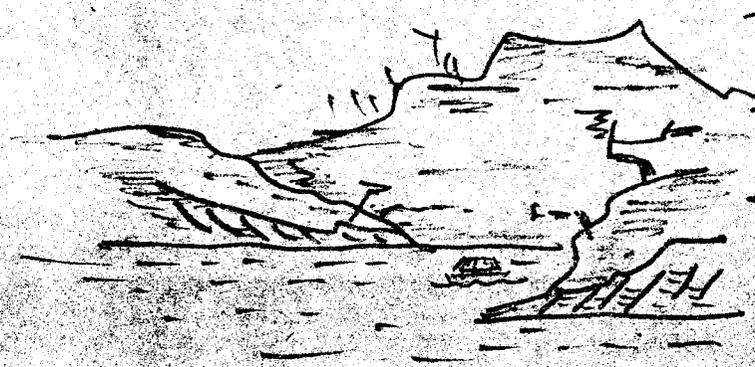
(13) 備陽史探訪

帝釈峡史跡巡り

藤匠史

六月二十四日 朝から降り出した小雨の中を
 途中何人かの会員等を乗せてバスは帝釈峡へと
 向った。福山から新市、三和町へと山の麓から
 木立の茂る森のアーケードをくぐりながら怒の
 外は、人家がポツン、ポツンとある。思案顔に
 こんな所に家があるなんて、生活がでてるのか
 しらと、サスが台所を覗かるとお母さん方から感
 嘆の声があがる。そうして、うさじに、神石小
 学校の庭の上、田辺氏の居城、ハツ尾城本丸よ
 り本日の家内役の武島さんにより説明があり、
 又、石灰岩の採集場では結晶石の備後沙の山を
 バックにあちらこちらで記念写真ととり、その
 後、中世室町時代田辺美作守勘七尉園広の開基
 による廣國院の本堂にて、当仕職のお話を聞き
 昼御飯、その後帝釈峡寄倉遺跡では当地の小田
 先生の熱のはいったお話に帝釈康人の夢をはせ
 なから資料館にて縄文、弥生時代の遺物を見て
 廻り、帝釈峡を野鳥のさえずりを聞きながら比
 婆郡東城町か北米のロックブリッジとスイスの
 ブレビッシュと並んで世界に誇る世界三大橋と云
 われる雄橋まで歩き、その巨大さに圧倒される
 思いだった。又、鐘乳洞の白雲洞に入りその造
 形美に魅せられ、帝釈峡の名の起りとなつた帝
 釈天を祀る永明寺に行き、最後に神童湖で遊覧
 船を楽しみ帰りのバスでは明るい歌声を山あい
 に残しながら夕やみ迫る福山へと急いだ。

山あいに
 さえずりやたな鳥の声
 帝釈峡に我等遊んで



お伽話と伝承

浦島太郎と桃太郎

種本実

「知るは楽しみなり」と申しまして、これは日曜日の夜の某放送局の名文句です。たしかに志しい毎日の営みの中にもいろいろな事に関心をもち、新しい知識を吸収することは楽しく、気分転換にストレスの解消にもなるすばらしいこととす。それはテレビのワイドショーでも、週刊誌でも得ることが出来る。多岐にわたる合新開から楽しむを得ることが多い。朝日新聞から述べる浦島太郎の伝承も五月七日の朝日新聞に小さく、尾道市美之郷町三成の浦島神社で恒例の浦島まつりが行なわれたと掲載されたのを読んだことがきつかけ、色々調べることになりました。

今迄浦島太郎といえはお伽話作り話というところしか頭にはありません。浦島神社の浦島まつりが隣の尾道市に実在するところか、浦島まつりが私の好奇心をかきたて、浦島神社の小さな記事が私の好奇心をかきたて、浦島神社へ出向いたり文献を読んだり浦島伝説が伝わる他の市町村から資料を取り寄せたりすることにしたり、さらに同じように昔から親しまれ語り継がれてきた桃太郎についても若干調べてみました。したので後述させていたいただきました。

浦島伝説

浦島太郎の語は万葉集や日本書紀に国風土記逸文として伝えられている。浦島子伝説が原型とされ、浦島子という意味をもつ語でそれが中世になりお伽草子として登場した時庶民に親しまれ易いように浦島太郎となつたといわれています。古代より数々の文獻に少しずつ型を変えながら語り継がれてきたこの物語は現在でも各地に二十箇所余りの伝承の地があり、それ以外の地でも趣のある浦島太郎が伝わっているようです。

●尾道市美之郷 前述した新聞記事をもとに車で訪ねてみました。美之郷町は松永から尾道市に入らずぐの藤井川に沿った狭い道の上で、ゆき号線を少し山に入るこみらけた丘陵地帯です。浦島神社参道と大きな看板が道路に出ているので迷うことなく浦島神社へ行きました。境内に浦島神社の由来とした札が立っていました。そのまゝ記述してみます。

昔備後の国浦島の領主の子成延は龜を助けたお礼に龍宮に招かれます。やがて龍王からもらった弁才天像をもつて西暦八二五年十月七日浦島の地に帰ります。このことが朝廷にさかえ、お言葉によつて祠を建て、浦島大明神として祀られました。その後西暦八三六年八月に高僧大智識利元によつて祠のそばに海面山浦島寺を建て、弁才天像とともに観世音菩薩阿弥菟佛を二本尊とされました。

かしの南北朝の時代に足利直義の兵火にあい、戸時代の建物は昭和四年五月に改築された。現在の建物は昭和九年五月に改築された。と記されてお伽話が史実であつたかに伝へられてゐます。土地の古老の方に訪ねてみたところ、最澄や空海等が唐・天竺に往つて来た時代浦島太郎のモデルとされた人物が、ついで、現在の中国残留孤児のような境遇だつたのでしよう。この説も聞かれました。ある古老の方から浦島神社のいわれを聞いた。昔はだきましたかそれによる。このあたりが昔は松永湾に続く海であり浦島といふ地名だつた。うであり、浦島太郎の伝承は前述の札の内容と同一です。一七八七年に武蔵国金川驛現在の横浜市の浦島寺(現在は廃寺、横浜市地区には浦島寺跡と名記あり)僧曇誓天竜といふ者が庄屋福原氏を訪ね、我が寺の記録にこの地に海面山浦島寺がある何処方なりと尋ねてゐる。寺跡もさだかではなかつた。浦島寺も有つたことが伺はれる。とあります。この伝承は一八四八年の秋、浦島大明神の由来を記めた古文書が朽ち破れたので書き改めるこのころかありある古文書よりとされ、横浜市に調べに行かれた古老は尾道の墓から横浜へ行き死んだ浦島太郎のモデルの人としてのことを確認されたやうです。

新開に載つた浦島まつりはかつては旧の八月十五日に行つたので、昭和四十二年より地元の観光開発と子供の為に五月五日に行う

ようになり、子供みこしで、馬もかり出して、ギヤカに行なわれ、テレビでも紹介したことがあるやうです。

・丹後半島与謝郡伊根町 当地の宇良(浦島)神社には玉手箱や乙姫の小袖、浦島明神繪巻などが収蔵されてゐます。元祖浦島発生の地としただけのことはあります。前述した丹後国風土記逸文によつては、浦島は浦の嶼子といふ浦の長者が海に釣りに出かけた不漁であつたが海上で神女に遭遇した。神女に招かれ海上の島にある宮殿にむいた。三年間は華な生活を営んで帰郷して、人間の世界では三百余年を経過してゐた。となつてゐます。

・丹後半島竹野郡網野町 当地にも浦島伝説の遺跡として、嶼子が額を取つて屋敷跡のエノキの木に投げた木の幹はツツタにたどり着いたといふ。この木は今も町の銚子山古墳のそばに立っています。又浦島が釣つた魚をいけす代りにしたといふ岩場は「つんだめ」と呼ばれ、いまも海水をたいてゐます。この他丹後地方には伝承の地も観光の地(日和山海岸)が多いやうです。

(つづく)

参考資料

- ・日本昔話事典(弘文社)
- ・浦島伝説の探究(水野祐・サンポウブックス)

わが町には休ませてもらひたたまました。

